

三鷹市立高山小学校 令和5年度【 国語 】科 授業改善推進プラン

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年	<p>○音読の宿題を毎日行うことで、正しく読む力が身に付いてきた。</p> <p>○文字（ひらがなやカタカナ、漢字）の読み書きの練習を様々な方法で行うことで、丁寧に書くこととする児童が増えてきた。</p> <p>○ひらがなや漢字の学習で言葉集めを行った。本の読み聞かせをしたりして語彙を増やしてきたが、児童によって差がある。</p> <p>○説明文と物語文の違いについて理解し、物語での人物の心情の読み取りができていた。説明文の構成について気付いたりした児童も多い。しかし、理解が不十分な児童もいる。</p> <p>○叙述をもとに自分の考えを書く活動など思考を伴う活動では、児童によって差がある。</p>	<p>○音読の際に、語のまともに気を付けながら、文章を正しくはつきり読むことができる児童が増えてきた。</p> <p>○文字の字形を整えたり、とめ・はね・はらいに気を付けたりしながら、丁寧に書くこととする姿勢が身に付いてきた。しかし、書き順を正確に覚えていない児童が多い。</p> <p>○語彙量には差がある。</p> <p>○説明文、物語文、詩の違いに気付き、既習事項と関連付けながら判断することができるようになってきた。</p> <p>○書く経験が増えていく中で、経験したことを思い出して文章を書く力が育ちつつある。しかし、助詞の「は」「を」「へ」、段落や句読点を正しく使うことが難しい児童も多い。</p>	<p>○音読の際に、語のまともに意識させて読む指導を継続する。</p> <p>○正確な書き順で字形の整った文字を書けるように、文字指導の際には、正しい書き順で文字をなぞらせたり、何回も空書きをさせたりする。また、書き順が間違っている児童には個別に声掛けをして、正確に覚えさせる。</p> <p>○本の読み聞かせや言葉遊び、言葉集めなどを通して、語彙を増やしていく。</p> <p>○物語文では、導入で作品に興味をもたせ、物語を楽しむ授業を実践する。説明文では、問いに対する答えを正しく読み取る授業を継続する。</p> <p>○経験したことを思い出して書く日記等、書く機会を増やす。その中で助詞、段落や句読点の正しい使い方を指導する。また、文章を書いた後で、自分で読み返して校正する習慣を身に付けさせる。</p>
第2学年	<p>○聞く学習では、必要なことを記録しながら聞く経験を重ねてきたが、話の内容を捉えて感想をもつことができる児童は少ない。</p> <p>○書く学習では、書く内容を明確にし、自分なりにまとめることができる児童が増えた。書き方の決まりについても意識する児童が増えた。しかし、必要なことを的確に書くことについては引き続き指導が必要である。</p> <p>○読む学習では、場面の様子や登場人物の行動などの大体的内容を捉えて読み、自分の意見をもって伝える活動を取り入れたが、自分の意見に自信がもてずに交流が深まらないことがあった。</p>	<p>○読む学習では、日々の音読によって、文章を正しく読むことができる児童が増えてきた。またそれを通して場面の読み取りや登場人物の行動の読み取りができていたが、まだまだ個人差がある。</p> <p>○書く学習においては、文章の内容を分かりやすくまとめて書く力が身に付いていく様子が見られた。また、自分の考えを書いて伝える方も向上が見られたが、個人差が見られる。</p> <p>○聞く学習の授業では、メモなどをしながら聞くことで内容を捉えることのできる児童も多いが、それを皆段の学習で取り入れられている児童は少ない。</p>	<p>○読む学習では、音読でただ読むだけではなく接続詞や繰り返して出てくる語などキーワードに着目して読むよう指導する。また大きさ、高さ、速さなど読み方の視点を与え、読み方の工夫を促す。</p> <p>○書く学習では、何を重要視して書くかを明確にして指導するようにする。また、自分が一番伝えたいことは何か、そのためには何を書かなければならないかを指導する。</p> <p>○聞く学習では、引き続き内容を捉えたメモの取り方などを指導していく。それに加えて、そこから内容を読み取ることができるような指導を行う。</p>
第3学年	<p>○音読の学習では、言葉の意味を個々や全体で確認することで、言葉の意味や文節の区切り方を覚え、スムーズに音読できるようになった。</p> <p>○漢字の学習では、新出漢字の学習で間違えやすいポイントを重点的に指導したり、テストやノートで間違えた漢字は直したりする時間を確保した。学習しても知らない時間には身に付いても、時間がたつと忘れてしまう児童が多かったため、定着の方法に改善が必要である。</p> <p>○書く活動では、全体指導で書く内容を明確にし、書き出し方、使う言葉や文章構成について、具体例をいくつか挙げてから個々の活動に取り組ませることで、個々が活動にスムーズに取り組めた。</p>	<p>○音読では、抑揚や速さなどを意識して音読をする児童が多い。物語文では、気持ちを読み取り工夫して読む児童も多い。</p> <p>○漢字の学習では、一生懸命に取り組む姿勢が見られるが、丁寧に書くこととする児童が少なく、書写の学習を通して、手本を見て丁寧に書くという意識を高められるように。</p> <p>○書く学習では、書くことを苦手に感じる児童は少ないが、内容や構成を事前に確認することで、より詳しく書くことができる。</p>	<p>○音読の学習では、言葉の意味を個々や全体で確認することで、言葉の意味や文節の区切り方を覚え、スムーズに音読できるようにする。また、授業中や家庭で何度も繰り返し音読することで、内容を把握するだけでなく、聞き手に伝わるような抑揚を意識した音読ができるようになる。また、詩やリズム感のある文章を色々な方法で音読することで、読むことの楽しさを指導する。</p> <p>○漢字の学習では、新出漢字の学習で確実に正しい字を覚えられるように間違えやすいポイントを重点的に指導する。また、テストやノートで間違えた漢字は直しをする時間を確保し、定着を図る。漢字単体ではなく、熟語で覚えられるよう指導する。</p> <p>○書く活動では、書く内容を明確にする。また、書き出し方、使う言葉や文章構成について、具体例をいくつか挙げてから個々の活動に取り組ませることで、苦手な児童もすんでき取り組めるようにする。</p>
第4学年	<p>○音読の宿題を通して、家庭学習でも活字を読む場を多く設けることができた。</p> <p>○ICT機器を活用した振り返りの仕方が効果的であったとは言えない。ただ撮る、見るのではなく、目的をもって活動させるために丁寧な事前指導が必要である。</p> <p>○内容を正確に聞き取ることができる児童が多い。一方、自分の考えはあるが大きさや抑揚まで考えて発表できる児童は少ない。</p> <p>○主述関係を意識して文を書くことができる。しかし、文全体の構成を考えて書く力には課題があるため、マニュアル化するなど継続して指導を行う必要がある。</p>	<p>○話す・聞く学習では、相手を見て話したり聞いたりすることは意識しつつあるが、発表する場面で言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意できる児童は少ない。一方、教材の音読は、言葉の意味を知ること、文節を区切って読むことができるようになっている。</p> <p>○書く学習では、間違えを正したり、相手を意識した表現になっているかを確かめたりする（推敲）経験が乏しい。また、文章の中で既習の漢字を使うことができない児童も多い。</p> <p>○読む学習では、文の構成や中心となる事柄などを解釈する力は身に付いてきた。しかし、その解釈に基づいて、自分の感想や考えをもつ力には差がある。</p>	<p>○話の中心や話す場面に応じた表現の工夫を指導する。話の中心を明確に捉えて話すとともに、声の出し方や言葉遣い、視線、自分の感じたことを強く伝えるための抑揚など、意識させたいことの視点を提示する。また、様々な場面で繰り返し表現できる場を設ける。加えて、発表の様子を録画し、観点に沿って振り返るなど、ICT機器を活用する。</p> <p>○間違いを正す際の観点を提示する。児童自身が間違いを正し、よりよい文章になったことが実感できるように、下書きと推敲後の文章を比べるなどして定着を図る。さらに、友達同士で文章を読み合い、文章に対する感想や意見を伝え合う活動を通して、より良い文章を見付ける。</p> <p>○自分が文章をどのように捉え、理解したのかを確かめた後に、感想や考えを表現させる流れとする。疑問点やさらに知りたい点など、観点を提示し、自己の考えを形成し、表現する時間を設ける。</p>
第5学年	<p>○音声にして読む力は、音読の宿題等を通して活字を読む場を多く設けることができた。</p> <p>○語彙力は、漢字練習を中心に学習を継続したが、活用力は個人差が大きい。</p> <p>○話す力については、意見や立場をはっきりしているが、その理由や根拠を述べたりすることができない児童はまだまだ少ない。</p> <p>○聞く力は、相手に共感しながら聞く態度が定着した。</p> <p>○文章を読み取る力は、作品や文章の構造を読み取りそこから主題や主張を考える読み方はできたが、それに対して自分の考えを述べたり、文章の書き方を作文に生かしたりする力にまでは至っていない。</p> <p>○記述する力では、主述の整った正しい文章を書くことができる児童は8割に留まった。</p>	<p>○新出漢字および既出の漢字の定着に課題がある。既出の漢字を書けない上に、新出漢字が増えていくことから苦手意識をもっており、文章を書くときや学期末のテストなどでは定着していない様子が見える。</p> <p>○習った漢字や熟語の意味を理解しておらず、正しく活用することができない児童が多い。また、語彙が少なく、作文等では使い慣れた表現を使ったり、誤用したりする。</p> <p>○文章を書かせると、話し言葉と書き言葉が混在していることが多く、</p> <p>○人物の心情を読み取ろうとはするものの、文章を根拠に読み取ることには課題が見られる。</p> <p>○まとまった量の文章を読むことに抵抗のある児童もいる。</p> <p>○事実、意見、伝聞などを区別したり、要点を整理して話したりすることには課題のある児童が多い。</p> <p>○読書は好きであるが、様々なジャンルを幅広く読むということには課題がある。</p> <p>○タブレットの使用を好み、書くことそのものに抵抗を感じる児童が一定数いる。</p> <p>○説明文を要約したり要旨をまとめることに苦手意識をもっている児童が多い。</p>	<p>○覚えた漢字、覚えていない漢字が分かるように、漢字カードを作成し達成感を味わいながら覚えさせるようにする。</p> <p>○読書の時間を意図的に設け、音読教材などを活用したりして、様々な文体や表現に触れられるようにする。また、教科書の教材文を読む際に意味調べをこまめに行わせるようにする。</p> <p>○新出漢字を使った単文作りを通して、短く端的に文を書く経験や、適切に漢字を使う経験を積ませる。</p> <p>○事実、意見、伝聞を区別することが学習できるワークシート等を活用し、理解できるようにする。授業の中でも伝わりやすい話し方について適宜指導する。</p> <p>○タブレットを使用する機会と、書く機会とを意図的に分けて指導を行い、書くことへの耐性も付ける。</p> <p>○説明文の構造が理解できるように、分かりやすい構造の説明文を活用するなど、教材文の工夫を行う。</p>
第6学年	<p>○漢字の学習では、ミニテストやまとめのテストなどを活用しながら、覚えていない漢字も覚えられよう工夫したが、習熟に関しては個人差も大きい。</p> <p>○教科書以外の文章に触れる機会を確保することで、多様な表現に触れられ、表現力が豊かになった。</p> <p>○教科書の指導に併せて、事実、意見、伝聞を区別する学習を教科横断で実施を行うことで、区別しようとする児童も見られた。</p> <p>○読んだ本の紹介、授業での本の活用を通して様々なジャンルの本を読むようになった。</p> <p>○ICT機器やノートを活用した表現やまとめの技術がそれぞれ身に付いており、各自選択して発表や記録等をしていった。</p> <p>○複数の説明文に触れることで、説明文の構造に関して理解を深めることができた。</p>	<p>○漢字を正確に書き取ったり、同音異義語を書いたりすることができない児童が多い。</p> <p>○意見を述べることには意欲的だが、論理的な説明ができない児童が多い。</p> <p>○学習課題に対し前向きに考えている児童が多いが、発問や設問に正対して思考・回答する意識が薄く直感的に答えるので、答えの論点がずれようことがある。</p> <p>○共感的な聞き方ができるが、それを基に自分の意見を組み立て発言しようとする意識や意欲をもった児童に偏りがある。条件に即して話し合いを展開し合意形成する力が弱い。</p> <p>○自分の考えが伝わるような論理的な構成で文章を書くことに課題がある。</p>	<p>○漢字の書き取りや同音異義語について、授業の中でも繰り返し指導し、また家庭学習でも反復練習をするよう促す。</p> <p>○語彙力は、自主学習等で日記に取り組みせたりeライブラリで反復練習を重ね、書きや漢字の使用を習慣化させていく。</p> <p>○話す力は、意見や立場をはっきりさせた上で、その理由や根拠を述べると、相手に伝わりやすい話型を指導する。</p> <p>○読む力は、設問を正確に読む方法や正対した答え方を繰り返し指導する。</p> <p>○話し合う力は、自分の意見の妥当性を述べることに終始することなく、相手の意見のよいところや自分の意見との共通点を見付けて聞くように指導する。また、相手の意見を受けて自分の考えを表現する機会をとる。</p> <p>○記述力は、文章の三部構成を意識し、相手に分かりやすい文章の書き方を指導する。それを、意見を述べる際にも生かせるように指導する。また、書いた文章を読み返す大切さを指導する。</p>